

わらび

おん

蕨の恩

文・絵 加藤朱里

秋草学園短期大学 文化表現学科

むかしむかし、あるところに一匹のヘビが昼寝をしていました。



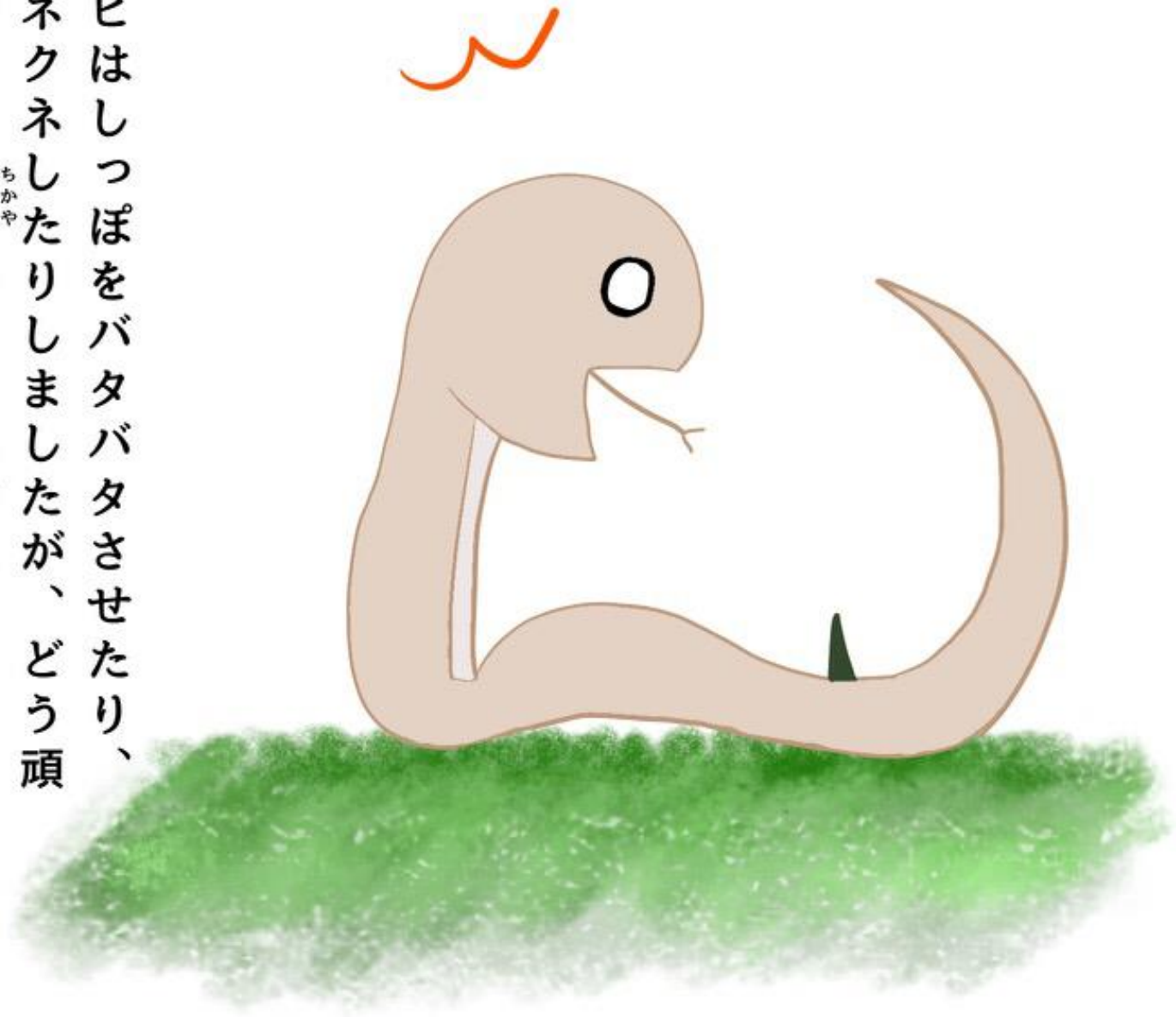
すると、土の中から茅萱ちかやが芽を出して、とんがった先でヘビの身体を突き通してしまいました。

やがて目を覚ましたへビは、
「フワアア、よう眠ったなあ」
と、前に進もうとしたのですが、
茅萱ちかやに身体を貫つらぬかれていたの
で、前に進みません。



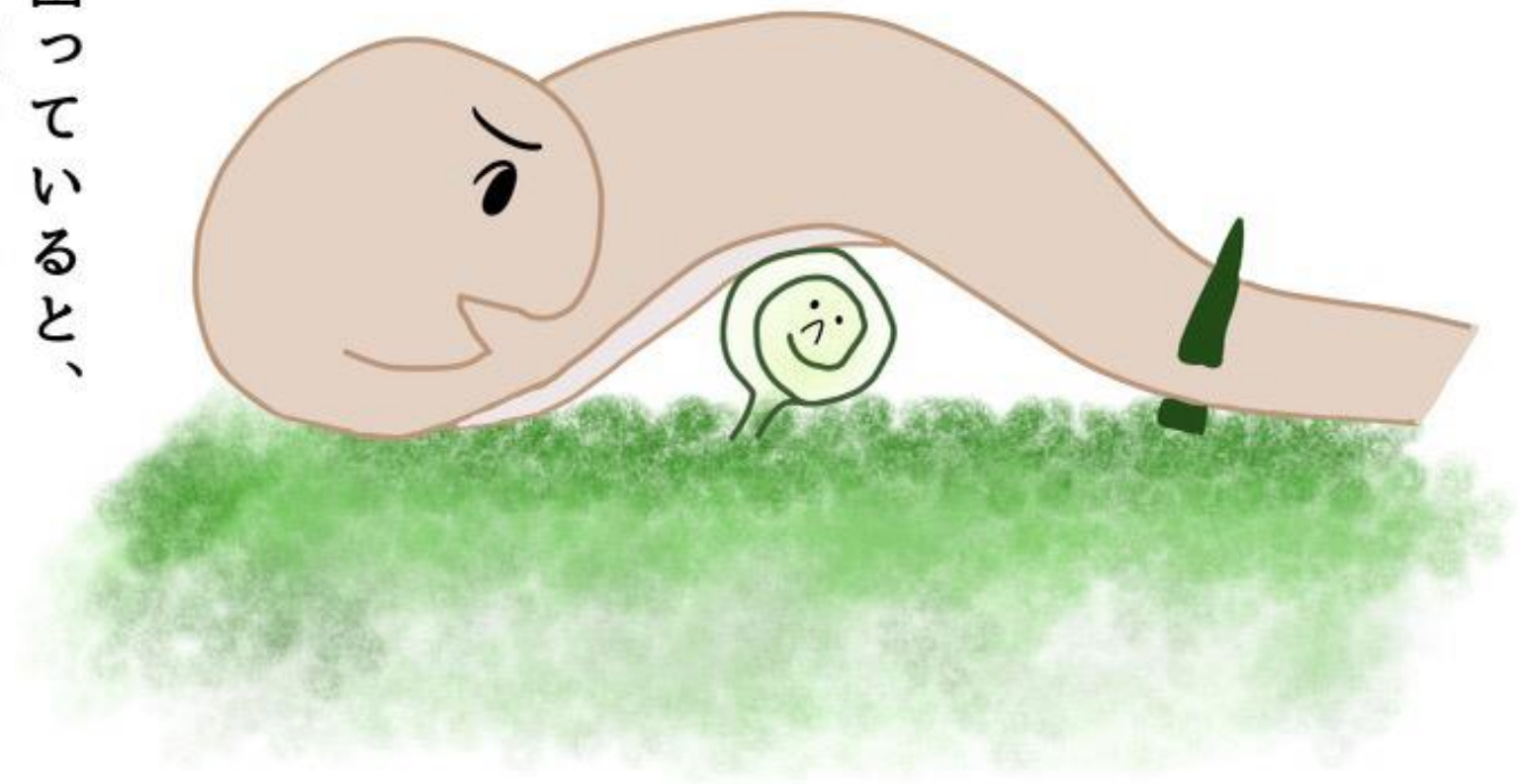
「あれ？おかしいなあ？」
そこで自分の身体を見て、
ようやく自分の身体が茅萱ちかやに貫つらぬき通とさ
れていることを知ったのです。

「わあああ！これはたいへんだ！」



へビはしつぽをバタバタさせたり、
クネクネしたりしましたが、どう頑
張っても茅萱ちかやから身体がぬけませ
ん。

「どうしよう？このまま動けな
いと飢え死にしてしまうよ」



へビがほとほと困っていると、
ちようどへビのお腹の下あたり
から、かわいいワラビが出てき
ました。

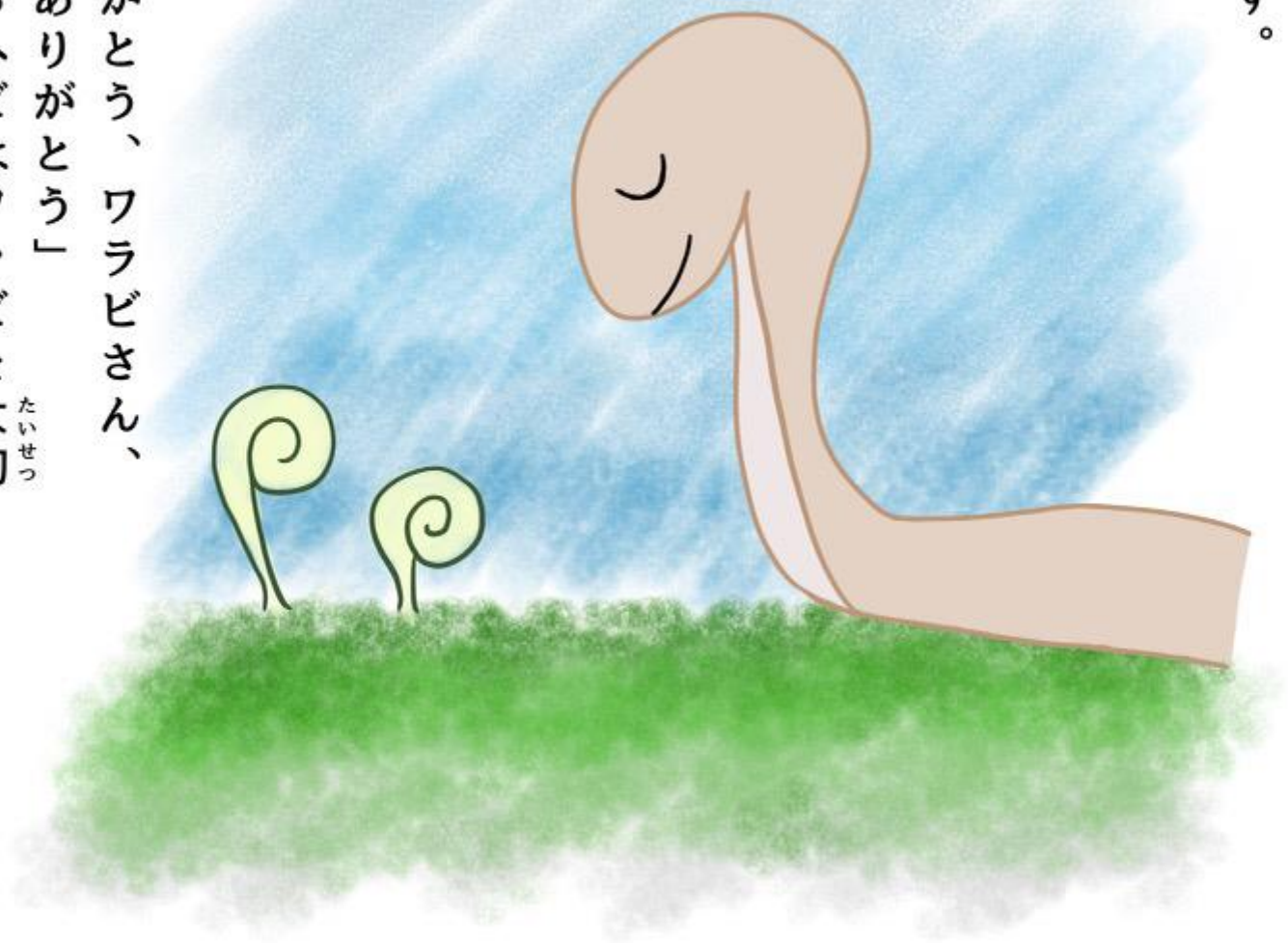
ワラビはへビが困こまっているの
を見ると、
「へびさんへびさん、ぼくが
身体を持ち上げてあげるか
ら、もう少しのがまんだよ」

ワラビ



とって、へビの身体をどん
どん持ち上げました。

こうしてヘビの身体はつきさ
さっていた茅萱ちかやからスポンと
ぬけたのです。
身体じゆうが自由じゆうになったヘビは大
喜びよろこびです。



「ありがとう、ワラビさん、
本当にありがとう」
それからヘビはワラビを大切たいせつ
にするようになりました。

そしてヘビが人間を襲うときに、人間が

♪ヘビよ、ヘビ

♪茅畑ちかやばたけに昼寝して

♪ワラビに助けてもらった恩を忘れた
か？

♪もしも噛かんだりしたならば、ワラビを
全部とっってしまうぞ

と唱となえると、ヘビはワラビの恩を思い出して、
道をあげてくれるのだそうです。



おわり